



地域の夢

中之島地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための中之島地域の方針と活動

中之島地域は、こんなところ

■中之島町の成り立ち

中之島町は県のほぼ中央に位置し、信濃川、刈谷田川、猿橋川に囲まれた町です。

元禄15年(1702年)の越後国御帳に「中之島村」と記されています。

明治34年に近隣8村が合併して現在の町域となり、平成13年に立町(村)100周年を迎えました。

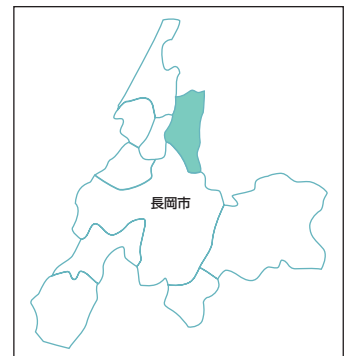
中之島町の基幹産業は水稲を中心とした農業です。近年さらに北陸自動車道中之島・見附インターチェンジ及び長岡東バイパスなどの恵まれた高速交通体系を活かしながら工業団地(流通団地)造成事業に着手。住宅団地の造成とインターチェンジ周辺を一大物流基地として整備し県内外の優良企業誘致を進めています。

■れんこんの里

中之島町大口地区はかつては石油や天然ガスが噴出し、稲作には不向きな土壌と言われていましたが、それが逆にれんこん栽培に適していることが分かり、以来80年以上栽培が続けられています。そして昭和50年代には全国的な産地となり「大口れんこん」の名で県内外へ出荷され全国有数のブランドに成長しました。

中之島地域の方針と活動 (右頁参照)

中之島地域において「新市地域らしさ価値」を高めるための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。



■コシヒカリの里

中之島町は信濃川の沖積地で、平坦で肥沃な土地を有し、古くから水稲を中心に農業で栄えた町です。米どころ新潟でも有数のコシヒカリの産地です。

昭和23年には超過供出米日本一を記録しています。

そんな米王国・中之島も川に囲まれた低湿地で湿田との格闘で苦勞した歴史があります。

先人達のたゆまぬ努力で昭和初期には機械排水設備の完成により生産力のある美田となりました。

現在は1ha区画のは場整備を進め、生産組織化による地域営農システムの推進、減農薬減化学肥料栽培の拡充による高付加価値米の生産促進に取り組んでいます。次代を担う子どもたちのために、小学校の学校田では農家ボランティアがアイガモ農法による米づくりも行っています。

1 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

中之島地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・高速交通体系に立地した流通機能を最大限に活かしながら、流通拠点として独創企業の生育を支援する

—実現すべき中之島の姿— WILL

■中之島地域整備・活動方針

抜群の広域アクセス性・立地環境を活用した独創企業支援地域

- ・抜群の流通機能と豊かな生活環境から生まれる豊富な労働力を活かし、生育する新産業等の独創企業を支える地域づくりを行う

実現していくための活動・展開

見極める

- 優れた広域交通アクセスルートによる、空港・港を視野に入れた地域流通革命への挑戦
- 企業の活発な技術交流や連携促進の支援体制づくり

発信する

- 流通拠点としての環境づくりと、立地優位性の強化・発信

育てる

- 生涯学習拠点の活用による、想像力のある企業人育成を支援する取り組み活動

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

交通に恵まれた立地環境

- 高速道ICと国道8号などの地域縦貫道路が立地、積雪量が少ない(50cm)
 - ・県のほぼ中央に位置し、流通や通勤についても広範囲となり、交通拠点性が高い
 - ・ICでは、新潟西・長岡に次いで利用車両が多い

立地環境を活かした工業団地(流通団地)

- ・大型ロジスティックセンター、配送センターによる集約化による企業メリットが大きい

若いまち・豊富な労働力

- 平均年齢41.7歳、同居世帯が多い
 - ・14歳未満の年少人口が16.5%と県下で4番目に多く、将来の労働力を担う世代が多い
 - ・3世代世帯が多く、子育て環境も良くパートタイム雇用ニーズに対応可能

マナビプラザなかのしま

- 3万冊蔵書。見る、聴く、学ぶ機能を兼ね備えている
 - ・交通至便な立地に加え、広域圏で見ても場所が分かりやすく、県内各地からの研修会場としての利用がある

2 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

中之島地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・広大なほ場で様々な良質な農産物生産基地を発信・PR
- ・人材力が生産の源であることを強く訴求

—実現すべき中之島の姿— WILL

■中之島地域整備・活動方針

若く元気な住民パワーによる安全・安心・美しい食産基地

- ・地域づくりに積極的に取り組む住民力(かあちゃんパワー)による、安全・安心・新鮮な農産物の供給地域

実現していくための活動・展開

見極める

- 地域営農システムの強化と複合経営の推進による自立農業の確立
- 生産履歴活動・減農薬減化学肥料栽培の拡充による高付加価値米の生産促進

発信する

- 大口れんこんなど安全・新鮮な素材と料理法をセットしたPRによる、地産地消活動の推進
- ハスの花など固有の田園風景を活用した「観せる食産基地づくり」と発信

育てる

- 生産から販売まで、魅力ある農業を担う多才な人材の育成活動

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

大口れんこん

- 100haの作付面積、豊富な地下水を利用、酒・パン・パイ、とれたて市
 - ・有機肥料でまっ白な切り口、サクッとした歯ごたえ、多くの加工品として利用されている
 - ・婦人グループによる農産物直販所で数多くのとれたて野菜の販売

ジャンボおにぎり

- 米文化の象徴、元気の源としての誇り
 - ・1989年ギネス公認の600kgのジャンボおにぎり、良質な米産地のシンボル

大区画ほ場での農業生産

- 肥沃で平坦な沖積地に立地するほ場、1ha区画ほ場整備と生産組織化を推進
 - ・地域営農の推進と厳しい生産履歴活動のもと、減農薬減化学肥料による米づくりへの取り組みと小松菜・なす等野菜栽培も盛ん

交通機能を活かした出荷施設

- ・高品質維持施設(青果物集出荷予冷センター)により計画収穫と、迅速な市場出荷が可能

家族力と住民力

- 平均年齢41.7歳、世帯人数が4.16人、花の道づくりボランティア活動
 - ・世代を越えた地域住民の自主的活動による花の道づくりによる農村アメニティ創造活動が盛ん
 - ・家族の結びつきや強い地域の結束力がある

地域の人間性

- ・昭和23年超過供出米日本一の栄光、他人を思いやる心→中之島版米百俵の精神

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

中之島地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・世帯員数が多く、高齢者単身世帯が少ないことのアピール
- ・多くのボランティアなど、地域コミュニティの中で家族の基本形をつくりつづけ、家族・地域のつながりを強くしていく

—実現すべき中之島の姿— WILL

■中之島地域整備・活動方針

家族・地域が一体となって、子育てを応援する安心のまち

- ・家族・地域の人とのつながりを大切にしながら更なる安らぎ住まいと子どもを育む地域づくりを推進

実現していくための活動・展開

見極める

- 多様な住民組織とネットワークを活用した、参画と協働のまちづくりと生活支援の仕組みづくり
- 総合子育て支援センター、育児ボランティアを活用した地域ぐるみの子育て支援の仕組みづくり

発信する

- 家族・地域のつながりのモデル地域としての活動と誇りの発信

育てる

- 全ての世代交流、生活支援の仕組みを支える地域ボランティアの継続的な育成活動

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

偉大な先人達と史跡

- 大竹貫一、義民与茂七
 - ・農民の悲願の治水事業により見事な美田を作り上げるなど多くの偉業を残した人の歴史（生家跡・記念館）がある

鳳合戦などの伝統文化

- 350年余の歴史、神楽舞
 - ・受継いだ歴史・文化を守りながら、途絶えた稚児舞を復活させるなど強い連帯感により後世へつなげる伝統文化の保存を進めている

食の交流

- 大口れんこん、ジャンボおにぎり
 - ・米に代表される農産物、数多くのれんこん料理によるもてなしと、加工品による食を通じての新たな交流発信が可能となる

高速道とIC

- ・高速交通体系とアクセスのよさ

まつり

- 地区の春・秋まつり
 - ・地域で培ってきた祭りは独特のものがあ、中でも灯笼押し合いやお神輿巡行などは地域住民で守りつづけている

稲島稲荷

- 稲島講
 - ・商売繁盛の神様として県内外からの参拝者が多く、かたまちはご利益にあずかろうと大人気

見極める

- 多彩な農産物による「食」やミニ農園から生まれる「農交流」など、「食と農」を基本とした交流の創造

発信する

- 食と伝統芸能のイベントの企画と発信

育てる

- 「食」による「おもてなし」交流を促進する、住民パワーの育成と体制づくり

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

中之島地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・地域内連携による交流促進

—実現すべき中之島の姿— WILL

■中之島地域整備・活動方針

新ながおかをつなぐ広域交流発信地域の形成

- ・交通便利性を活用し、他地域の観光資源との連携を図り、広域交流の一翼を担う地域づくり

実現していくための活動・展開

見極める

- 多彩な農産物による「食」やミニ農園から生まれる「農交流」など、「食と農」を基本とした交流の創造

発信する

- 食と伝統芸能のイベントの企画と発信

育てる

- 「食」による「おもてなし」交流を促進する、住民パワーの育成と体制づくり

もっと詳しく地域の力

中之島地域

中之島町は優れた高速交通網による抜群の流通機能と豊富な労働力に恵まれた町です。

平均年齢41.7歳、3世代同居が多く若年労働者の確保とパートタイム雇用ニーズに対応できる環境が整っています。

ボランティアによる子育てから高齢者介護まで地域一体型の福祉活動も活発で、働きたい人が安心して働ける地域です。

■世代間交流でまちを活性化

平坦な地形と抜群の流通機能を活用し産業基盤強化を図りながら、快適で安心して暮らせる住環境づくりを進めている中之島町。平均年齢41.7歳。14歳未満の年少人口が16.4%と県下で4番目に多く若い年代が多い町。高齢者の単身世帯の割合は県下で最も少なく3世代同居が多く、高齢者との同居世帯が多いことで、家庭内での世代間交流があり、いたわりと尊敬心が醸成される土壤ができたようです。また保育所と高齢者施設の併設により、高齢者と同居していない幼児も自然に高齢者と交流できるように世代をつなぐ環境づくりにも努めています。

高齢者支援策としては、生きがい健康づくり運動を展開。多くのボランティアが話し相手や配食サービスなどに活躍しています。スポーツや趣味を通じてのサークルが多数あり、幅広い年代の人たちが健康に留意しながら、様々なことに挑戦しています。



■カントリーエレベーターから望むほ場整備が完了した田園風景

かつては日本一の米供出量を誇った中之島。見渡す限りの水田の広がる景観は中之島ならではの。田植えから稲刈りまで四季折々に日本の穀倉地帯の名にふさわしいと言えます。大区画ほ場での生産組織化による地域営農の推進により安全、安心で新鮮な農作物が生産されています。



■万本桜

大河津分水より与板橋までの信濃川の堤防を「桜並木ロード」とするために桜の植樹を開始。今では町のシンボリックな景観となり、東屋も整備され花見客で賑わいます。



■大竹貫一翁生家「大竹邸記念館」

大竹貫一の生家。明治27年に衆議院議員に初当選以来、歴任34年10ヶ月。この間刈谷田川改修、大河津分水の実現など河川改修事業に尽力。桜が見事な庭園は「新潟県景勝百選」に選ばれています。



■マナビプラザなかのしま

会議室、図書館、文化ホール、文化財展示コーナーなど、様々な機能をあわせ持つ町民文化センター。イベントや生涯学習活動の拠点や情報発信基地として、地域に根ざした文化の創造と芸術文化活動による、発表・創造・交流の場として活用されています。



■大口れんこん

大口地区で80年余り栽培されているれんこん。ビタミンCや繊維質、鉄分、ビタミンB12などを含む健康食品です。真っ白な切り口とサクッとした歯ごたえ。このれんこんから作られた「ワイン風れんこん酒蓮の花」は新しい特産品です。